

2023 (R5) シカ年度*
知床半島エゾシカ管理計画
実行計画 (案)



令和 5 (2023) 年 6 月

* 「シカ年度」の定義については p.1 の②参照

目 次

2023 (R5)シカ年度管理計画実行計画概要

1. 知床半島エゾシカ管理計画実行計画について p.1
- 2023(R5)シカ年度管理事業位置図 p.3
- 2023(R5)シカ年度モニタリング調査位置図 p.4
2. 2023(R5)シカ年度実行計画（管理事業）一覧 p.5
3. 2023(R5)シカ年度実行計画（モニタリング調査）一覧 p.6

2023(R5)シカ年度エゾシカ個体数調整・捕獲計画（案）

4. 2023(R5)シカ年度エゾシカ捕獲事業計画（遺産地域） p.11
5. 2023(R5)シカ年度エゾシカ捕獲事業計画（隣接地域） p.15

2023(R5)シカ年度植生モニタリング調査計画（案）

6. 2023(R5)シカ年度植生モニタリング調査計画（環境省分） p.18
7. 2023(R5)シカ年度植生モニタリング調査計画（林野庁分） p.22

1. 知床半島エゾシカ管理計画実行計画について

① 目的

今年度は、「第4期 知床半島エゾシカ管理計画」の計画期間【2022（令和4）年4月～2027（令和9）年3月】の2年目にあたる。同計画期間についても引き続き、各シカ年度毎に「知床半島エゾシカ管理計画実行計画」を作成し、エゾシカ管理施策を実施するものとする。本実行計画は、2023（令和5）年6月～2024（令和6）年5月を計画期間とする。

また、「知床半島エゾシカ管理計画」は、北海道が定める「北海道エゾシカ管理計画」（第二種特定鳥獣管理計画）の地域計画に位置づけられていることから、本実行計画に基づく各種事業の実施にあたっては、「北海道エゾシカ管理計画（第6期）」と十分な連携を図りながら進めるものとする。

② 2023（R5）シカ年度実行計画期間

エゾシカ管理上の年度区切りとしては、出産期の6月開始、翌年5月終了とする。
年度の表記としては、「R5シカ年度」とする。

③ 2023（R5）シカ年度実行計画概要

<管理事業>（3,5ページ参照）

「第4期知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた3つの管理手法（防御的手法、生息環境改変、個体数調整）を、各地区の管理方針に基づいて優先順位の高いものから順に実施することとする。

i) 「防御的手法」

知床岬などに設置されている各種植生保護柵による防御を継続するとともに、幌別－岩尾別地区では植生保護柵や単木保護ネットの補修を実施し、シカ樹皮食い防止対策を引き続き進める。ウトロ市街地や羅臼中心市街地では、市街地を取り囲む侵入防止柵や電気柵の維持管理および被害対策を継続する。

ii) 「生息環境改変」

幌別－岩尾別地区において、100平方メートル運動の森・トラストによる、開拓跡地の森林復元作業を引き続き進める。公共事業等における法面植栽等については、エゾシカの嗜好性の低い在来種の利用を推進する。

iii) 「個体数調整」

2023（R5）シカ年度については、引き続き知床岬地区、ルサー相泊地区及び幌別－岩尾別地区において個体数調整を実施する。なお、捕獲手法については、それぞれの対策地における対策フェーズに応じて、効率的かつ低コストな対策手法を試行するなどの検討を進める。

さらに隣接地域においても囲いわなや銃等による個体数調整を実施する他、狩猟による捕獲を推進する。なお、実施にあたっては、希少鳥類への影響に配慮する。

<モニタリング調査> (4, 6 ページ参照)

「知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた2つの評価項目（植生、エゾシカ生息密度）を中心に、必要なデータを収集することを目的とする。

i) 「植生」

既存の植生保護柵内外の回復過程調査を規模を縮小して実施するほか、個体数調整実施地区における固定調査区のモニタリング、簡易的手法による指標種の回復量調査、広域的なシカ採食圧評価のための混合ベルト調査等を実施する。

ii) 「エゾシカ生息密度」

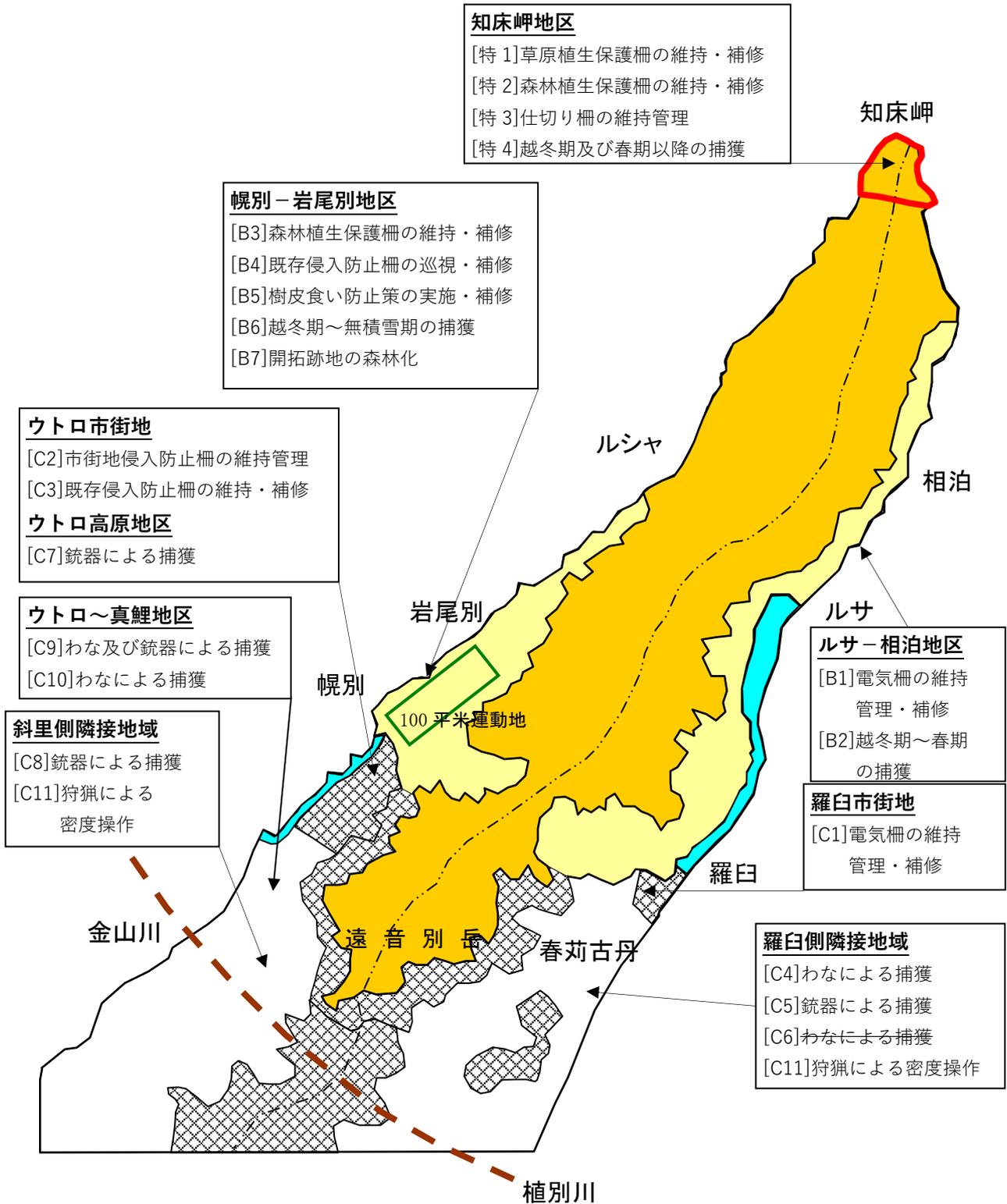
主要越冬地での生息動向を、航空カウント調査を中心に、ロードセンサス（ライトセンサスや日中センサス）などの手法も用いて引き続き把握することに加え、自然死亡状況についても情報収集する。

iii) 「土壌浸食」

広域採食圧調査の実施時に、土壌浸食について、A0層と表土の流失の程度を5段階で把握する。

2023(R5)シカ年度管理事業位置図

※[]内記号は管理事業No.を示す



知床岬地区
 [特 1] 草原植生保護柵の維持・補修
 [特 2] 森林植生保護柵の維持・補修
 [特 3] 仕切り柵の維持管理
 [特 4] 越冬期及び春期以降の捕獲

幌別-岩尾別地区
 [B3] 森林植生保護柵の維持・補修
 [B4] 既存侵入防止柵の巡視・補修
 [B5] 樹皮食い防止策の実施・補修
 [B6] 越冬期～無積雪期の捕獲
 [B7] 開拓跡地の森林化

ウトロ市街地
 [C2] 市街地侵入防止柵の維持管理
 [C3] 既存侵入防止柵の維持・補修
ウトロ高原地区
 [C7] 銃器による捕獲

ウトロ~真鯉地区
 [C9] わな及び銃器による捕獲
 [C10] わなによる捕獲

斜里側隣接地域
 [C8] 銃器による捕獲
 [C11] 狩猟による密度操作

ルサ-相泊地区
 [B1] 電気柵の維持管理・補修
 [B2] 越冬期～春期の捕獲

羅臼市街地
 [C1] 電気柵の維持管理・補修

羅臼側隣接地域
 [C4] わなによる捕獲
 [C5] 銃器による捕獲
 [C6] わなによる捕獲
 [C11] 狩猟による密度操作

- 特定管理地区
- エゾシカ A 地区
- エゾシカ B 地区
- 隣接地域境界線イメージ
- シカ捕獲禁止区域
- シカ可猟区域
- 国指定鳥獣保護区 (ただし、遺産登録地からはずれた部分: 隣接地域に含まれる)

2023(R5)シカ年度モニタリング調査位置図

※[]内記号は管理事業No.を示す

[D03]エゾシカ越冬群の広域
航空カウント

[V01]簡易的な手法による指標種の回復量調査
[V02]植生影響調査（森林）
[V04]植生保護柵を用いた回復過程調査（森林）
[V08]植生影響調査
[D01]エゾシカ主要越冬地におけるカウント調査

[V01]簡易的な手法による指標種の回復量調査
[V03]植生影響調査（草原）

[V11]シレットコスミレ調査

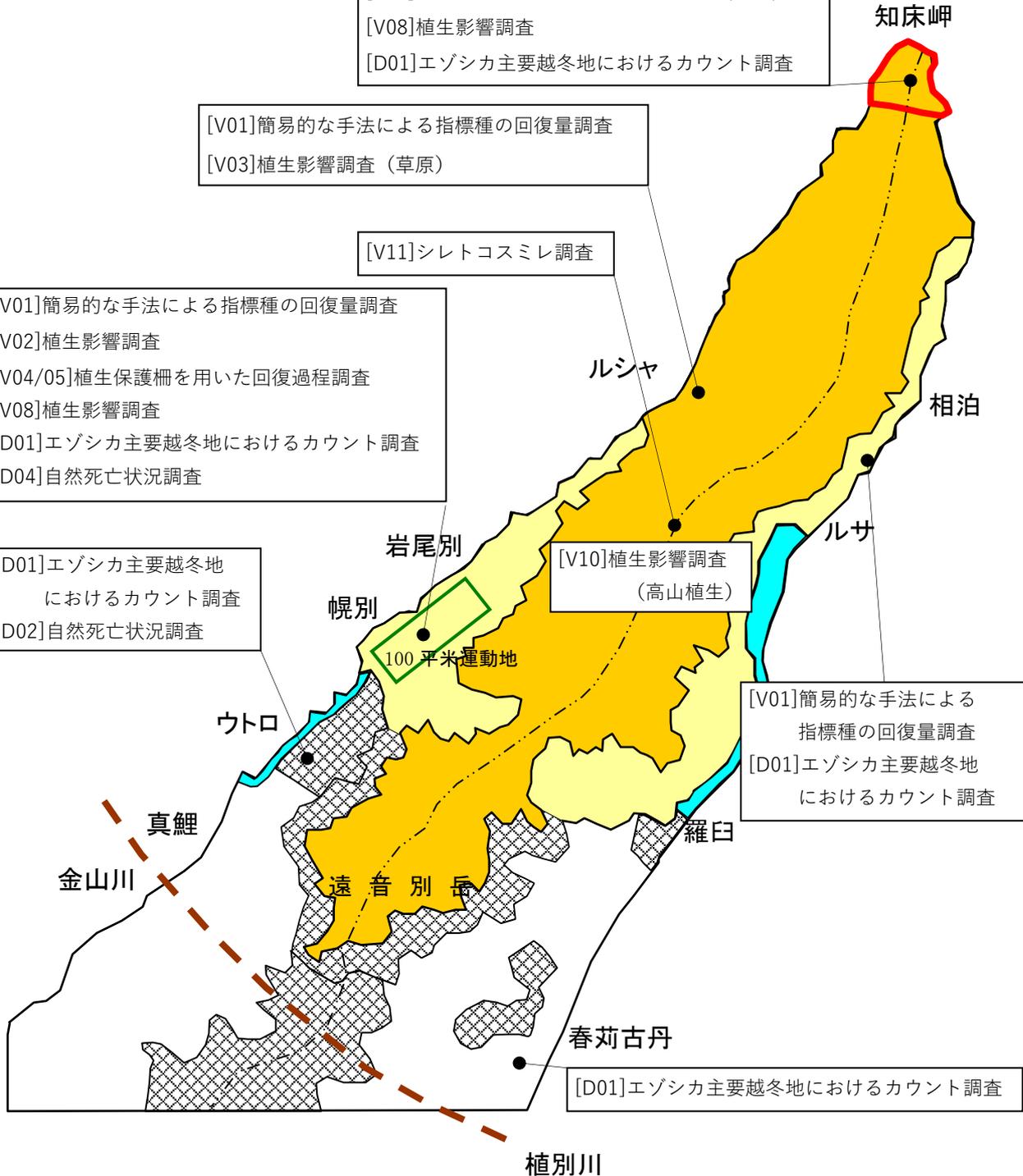
[V01]簡易的な手法による指標種の回復量調査
[V02]植生影響調査
[V04/05]植生保護柵を用いた回復過程調査
[V08]植生影響調査
[D01]エゾシカ主要越冬地におけるカウント調査
[D04]自然死亡状況調査

[D01]エゾシカ主要越冬地
におけるカウント調査
[D02]自然死亡状況調査

[V10]植生影響調査
（高山植生）

[V01]簡易的な手法による
指標種の回復量調査
[D01]エゾシカ主要越冬地
におけるカウント調査

[D01]エゾシカ主要越冬地におけるカウント調査



- 特定管理地区
- エゾシカ A 地区
- エゾシカ B 地区
- 隣接地域境界線イメージ
- シカ捕獲禁止区域
- シカ可猟区域
- 国指定鳥獣保護区（ただし、遺産登録地からはずれた部分：隣接地域に含まれる）

2. 2023(R5)シカ年度実行計画（管理事業）一覧

地区区分	管理目標	No.	管理手法	実施主体	管理事業	地区・場所	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08
特定管理 地区	エゾシカの採食圧を軽減することにより、風衝地群落・山地性高茎草本群落・亜高山性高茎草本群落を含む生物多様性を保全・再生するとともに土壌浸食を防止する。また、風衝地群落で植被率を回復させる。 (数値目標) 発見密度：10頭/km ² 以下	特1	防御的手法	環境省	草原植生保護柵の維持・補修	知床岬	○	○	○	○	○
		特2		林野庁	森林植生保護柵の維持・補修		○	○	○	○	○
		特3	個体数調整	環境省	仕切柵の維持管理		○	○	○	○	○
		特4			捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
エゾシカ A地区	生態的過程により変動する動的な生態系を保全するとともに、希少植物種、又は遺産地域に特徴的な在来植物種と植物群落の消失を回避することにより、本地区の生物多様性を保全する。	A1	防御的手法			高山帯	※必要に応じて検討実施				
		A2				ルシャ	※必要に応じて検討実施				
エゾシカ B地区	エゾシカの採食圧を軽減することにより生物多様性の保全を図る。特に離農跡地等の人為植生が越冬期の餌資源をエゾシカに供給している幌別-岩尾別地区では、離農跡地での森林復元を促進する。また、地域との軋轢の解消や軽減を図る。 (数値目標) 発見密度：5頭/km ² 以下	B1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	ルサー相泊	○	○	○	○	○
		B2	個体数調整	環境省	捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
		B3	防御的手法	林野庁	森林植生保護柵の維持・補修	幌別-岩尾別	○	○	○	○	○
		B4		斜里町	既存侵入防止柵の巡視・補修	(100平米運動地)	○	○	○	○	○
		B5		斜里町	樹皮食い防止策の実施・補修	(100平米運動地)	○	○	○	○	○
		B6	個体数調整	環境省	捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
		B7	生息環境の 改変	斜里町	開拓跡地の森林化	(100平米運動地)	○	○	○	○	○
		B8		環境省	道路法面牧草面積の拡大抑制	国立公園内	○	○	○	○	○
隣接地域	エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全するとともに、地域住民とエゾシカの軋轢緩和を図る。 (数値目標) 発見密度：5頭/km ² 以下	C1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	羅臼市街地	○	○	○	○	○
		C2		斜里町	市街地侵入防止柵の維持管理	ウトロ市街地	○	○	○	○	○
		C3		林野庁	既存侵入防止柵の維持・補修	イチイ林木遺産資源保存林	○	○	○	○	○
		C4	個体数調整	林野庁	捕獲（わな）	春刈古丹	○	○	○	○	○
		C5		羅臼町	捕獲（銃器）	羅臼町内	○	○	○	○	○
		C6		羅臼町	捕獲（わな）	羅臼町内	⊖	⊖	○	○	○
		C7		斜里町	捕獲（銃器）	ウトロ高原	○	○	○	○	○
		C8		斜里町	捕獲（銃器）	斜里町内	○	○	○	○	○
		C9		林野庁	捕獲（銃器及びわな）	ウトロ～真鯉	○	○	○	○	○
		C10		斜里町	捕獲（わな）	斜里町内	○	○	○	○	○
		C11		北海道	狩猟による密度操作	175市町村 一円※2	○	○	○	○	○

※1 水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。

※2 離島、法定禁止区域、事故防止や生態系への影響回避の観点から可猟区から除外する必要があると認められる区域を除く。

各年度の可猟区域等詳細については、北海道庁ホームページ (<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/syuryo/ichizu.html>) を参照。

3. 2023(R5)シカ年度実行計画（モニタリング調査）一覧

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ 又は調査方法	第4期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01		環境省	簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原・森林	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシャは他調査(V03等)と合わせて実施
				ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	
				幌別-岩尾別	草原・森林	○	○	○	○	○	
V02		林野庁	植生影響調査 (森林植生、草原植生)	知床岬	森林		○			△林床	林床・稚樹・下枝は5年に2回程度、毎木は1回実施。変化の少ないルシャ地区は5年間隔とする
				ルサ-相泊		△林床		○			
				幌別-岩尾別			○		△林床		
V03		環境省		知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は5年間隔程度
				幌別				○			
				ルシャ			○		○		
V04		林野庁	植生保護柵を用いた回復過程調査	知床岬	森林		○			※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために5年に1回程度実施	
				幌別			○				
V05		斜里町		幌別-岩尾別		○	○	○	○	100平米運動地ほか	
V06		環境省		知床岬	草原	○		○		隔年程度。他調査(V03等)と合わせて実施	
V07		環境省	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原						各調査区ともに終了
				ルサ-相泊							
				幌別-岩尾別							
V08		林野庁	植生影響調査(森林植生)	全域の越冬地(標高300m未満)、標高300~600m	森林	25区	16区	調査計画を全体に調整して毎年10~20区を調査			基本的に5年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げ予備調査区とする"
V09		環境省	植生影響調査(海岸植生)	斜里側 羅臼側	海岸			○	○	5年間隔	
V10		環境省	植生影響調査(高山植生)	全域	高山	遠音別岳	知床連山	羅臼湖	知床岳		
V11		環境省		硫黄山周辺			○	○	○	○	○
D01		環境省	エゾシカ主要越冬地におけるカウント調査	知床岬	航空カウント	○	○	○	○	○	
				斜里町 羅臼町 知床財団	幌別-岩尾別 ルサ-相泊 真鯉	ライトセンサス 日中カウント	○	○	○	○	
D02		知床財団 林野庁	エゾシカ間引き個体、自然死亡個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査及びデータの蓄積	知床岬 幌別-岩尾別 隣接地域		○	○	○	○	○	交通事故等死亡個体の回収・記録(ヒグマ対策の一環として実施)
D03		環境省	エゾシカ越冬群の広域航空カウント	全域	航空カウント	遺産地域内	遺産地域内	遺産地域内	○	遺産地域内	
D04		環境省	越冬地エゾシカ実数調査	—							本調査は終了
D05		環境省	エゾシカ季節移動調査	全域							本調査は終了
E01	詳細	環境省	土壌浸食状況調査	知床岬	(草原)						本調査は終了
E02	広域	環境省 林野庁	土壌浸食状況広域調査	全域	森林	広域植生調査(V08)に併せて実施					
B01		環境省	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況調査	知床岬	草原・森林			訪花			5年間隔
				ルサ-相泊				訪花 地表性			
				幌別-岩尾別				訪花 地表性			
B02		環境省	陸上鳥類生息状況調査	知床岬	草原・森林			○		5年間隔	
				幌別-岩尾別				○			

※水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。

2023(R5)シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画

地区別取組スケジュール

地区	内容	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
	(モニタリング調査)						●季節移動 ライトセンサス(秋期)		流水期 道道(岩尾別~五湖間)冬期閉鎖 11月下旬~4月下旬		航空カウント		●季節移動 ライトセンサス(春期)	
知床岬	①待ち伏せ狙撃 忍び猟 ほか	→											←	
	手法検討	←					→ 日没時銃猟、秋期捕獲、罟シカなど							
ルサ・相泊	①くくりわな猟								→ 餌誘引+捕獲 10回以上					
	手法検討								←					
									→ 餌誘引+捕獲 5回以上					
幌別・岩尾別	②待ち伏せ狙撃 忍び猟 ほか								→ 餌誘引+捕獲 10回以上					
	手法検討								←					
古丹 春刈	くくりわな猟								→ 餌誘引+捕獲					
ウトロ 真鯉	くくりわな猟								→ 餌誘引+捕獲					

2023(R5)シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画

捕獲取組一覧

事業主体	地区 [事業No.]	実施時期	捕獲手法	実施場所	実施回数 わな基数	捕獲目標 頭数
【遺産地域】						
環境省	知床岬 [特4] (位置図1)	2023年6月～10月 2024年4月～5月 ※1※2	待ち伏せ式狙撃 忍び猟 小規模巻き狩り猟ほか	知床岬先端部	延べ30 日以上 ※2	メス成獣 71頭 ※2
	ルサ-相泊 [B2] (位置図2)	12月～3月	くくりわな猟	アイドマリ川、ルサ川流域、昆布浜周辺ほか (図中①)	10回以 上 30基以 上	16頭
	幌別-岩尾別 [B6] (位置図3)	1月～3月	大型仕切柵による 囲いわな式捕獲	岩尾別台地上 (図中①)	3回以上	17頭
		1月～3月	待ち伏せ式狙撃 忍び猟 ほか	岩尾別川河口付近ほか (図中②)	10回以 上	
【隣接地域】						
林野庁	春刈古丹 [C4]	1月上旬～2月下旬 誘引は12月開始	くくりわな猟	春刈古丹川周辺	—	25頭
	ウトロ～真鯉 [C9]	1月上旬～2月下旬	くくりわな猟	宇登呂地区 (ウトロ東、弁財崎)	—	20頭
				遠音別地区 (オシンコシン周辺)	—	35頭

※1 5月以前は2022(R4)シカ年度事業に該当。

※2 捕獲目標頭数、実施時期並びに実施回数については、本WG委員の意見のほか、航空カウント調査結果等も踏まえて適宜見直し。

令和4年度第2回エゾシカワーキンググループ 知床岬地区におけるエゾシカ捕獲に係る委員からの指摘事項と対応方針

指摘事項（議事概要より抜粋）	2023 シカ年度対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲目標頭数を以前より増やし、知床岬地区の個体数を再度減少させなければならない現状では、色々なカードを切れるように備えておくことが肝要だ。このところ取り組んでいるハイシート、待ち伏せ、忍び、それらを含めて羅臼側にも拡大していくことが求められる。 ・さらには、山中委員ご提案の罔シカ、当初から言われている夜間銃猟等々の案について、知床岬でも何とか実現可能なものとしていただきたい。 ・知床岬で安全に実施できる方法や場所の検討を進めていただきたい。例えば、タワーを活用してできるだけ安全に（シカ捕獲を）実施できること、シカを誘引できる場所、そして当然ながら利用者の安全のための周知等、実現の可能性を高める取り組みを進めていただきたい（後略） <p style="text-align: right;">【宇野委員】</p>	<ul style="list-style-type: none"> → 知床岬地区における夜間銃猟については、今年度現地確認も実施して検討中。（検討業務を発注済み） → 罔シカについては、生体捕獲が実際に可能か、必要経費なども含めて情報収集中。 → その他、新たに設置したハイシートを利用するなど、より安全かつ効果的・効率的な捕獲の実現に向けて現地で随時検討・対応中。ハイシートについては今年度、羅臼側にも増設するために調整中。
<ul style="list-style-type: none"> ・知床岬では、先端部に捕獲の圧力をかけるとシカが南に移動してしまい、先端部で捕獲しづらくなるという課題があった。そのため、南に移動したシカを移動した先で捕獲するという作戦だ。船上から撃つのではなく、船外機船を浜に寄せて上陸する。相泊港から船外機付きの小型船で行くのであれば早期に実施が可能だろう。 <p style="text-align: right;">【山中委員】</p>	<ul style="list-style-type: none"> → 秋期捕獲検討の一環として、羅臼側の船舶を用いたアプローチ等について今年度検討予定（検討業務を発注済み）。
<ul style="list-style-type: none"> ・やはり長期的に持続可能な捕獲戦略が必要なのではないか。罔シカによる捕獲を試みたとしても、それで捕獲圧をかけ続けて行けば同じことが繰り返される。 ・ストーキングとハイシートからの餌付けも伴う手法で一回警戒心を解くという段階をおいてもいいのではないかと思う。岩峰から遠射という案もあったが、そういうことも一切しない。その代わりに、技術に長じたストーカー数人がコンスタントに現地に入って捕獲の方がより現実的ではないか。 <p style="text-align: right;">【梶委員】</p>	<ul style="list-style-type: none"> → 技術に長じたストーカーによる捕獲（忍び猟）は今年度の捕獲取組で対応中。（捕獲業務を発注済み）

指摘事項（議事概要より抜粋）	2023 シカ年度対応方針
<p>・基本的な方向性としては環境省からの説明のように取り組むこととし、今日のご意見も反映しつつ、可能であれば、例えば罠シカの捕獲について、あるいは夜間銃猟について、実現に向けた予備的な取り組みも盛り込んでいただくことでお願いしたい。梶委員からご指摘があったようなストーキングとハイシートは、山中委員からは岩尾別でのシャープシューティングと似ているということだが、知床岬と岩尾別では地の利もかなり異なる。知床岬は人が容易に行けないところであり、限られた期間の中で実施しなくてはならない。いずれにしても試行的な取り組みが求められている。</p> <p style="text-align: right;">【石川座長】</p>	<p>（上記対応方針の中で検討）</p>

※各対応については優先順位をつけて対応予定。

他2地区の対応方針

ルサー相泊地区

- ・数値目標（エゾシカ発見密度）は達成しているが、継続的な捕獲を実施。
- ・エゾシカの出現状況、地域の産業活動、希少猛禽類への影響なども踏まえたより適切な捕獲場所、捕獲手法の検討。
- ・今後の捕獲実施に向けた地域調整（隣接地域の意見交換会などの機会も利用）。

幌別－岩尾別地区

- ・数値目標（エゾシカ発見密度）は達成しているが、継続的な捕獲を実施。
- ・エゾシカの出現状況、公園の利用状況、希少猛禽類への影響なども踏まえたより適切な捕獲場所、捕獲手法の検討。

4. 2023(R5)シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画（遺産地域）

1. 目的

エゾシカの個体数調整を実施することにより、知床国立公園及び知床世界自然遺産地域（以下、遺産地域という。）におけるエゾシカの過増加による生態系への深刻な悪影響の緩和を図る。

2. 実施地区及び実施期間

計画期間：令和5（2023）年6月～令和6（2024）年5月（※6～8月）

実施地区ごとの期間は下表のとおり。

実施地区	実施期間
知床岬地区	令和5年6月～10月 令和6年4月～5月（※6～10月）
ルサ-相泊地区（羅臼町）	令和5年12月～令和6年3月
幌別-岩尾別地区（斜里町）	令和6年1月～3月

※6月以降に捕獲する個体については、翌シカ年度の実施状況として整理を行う。

※シカ年度は6月から翌年5月までの期間をいう。以下、文中「年度」の表記についてはシカ年度を指す。

3. 捕獲目標及びエゾシカ生息確認状況

実施地区ごとの捕獲目標頭数は下表のとおり。

実施地区	捕獲目標頭数※1	主な捕獲手法
知床岬地区	メス成獣 71 頭以上 ※1	待ち伏せ式狙撃、忍び猟 ほか
ルサ-相泊地区	16 頭以上 ※2 (内メス成獣 5 頭以上)	くくりわな
幌別-岩尾別地区	17 頭以上 ※2 (内メス成獣 6 頭以上)	大型仕切柵による囲いわな式捕獲、 待ち伏せ式狙撃 ほか

※1 知床岬地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数のうち、メス成獣の半数以上を捕獲目標頭数として設定。

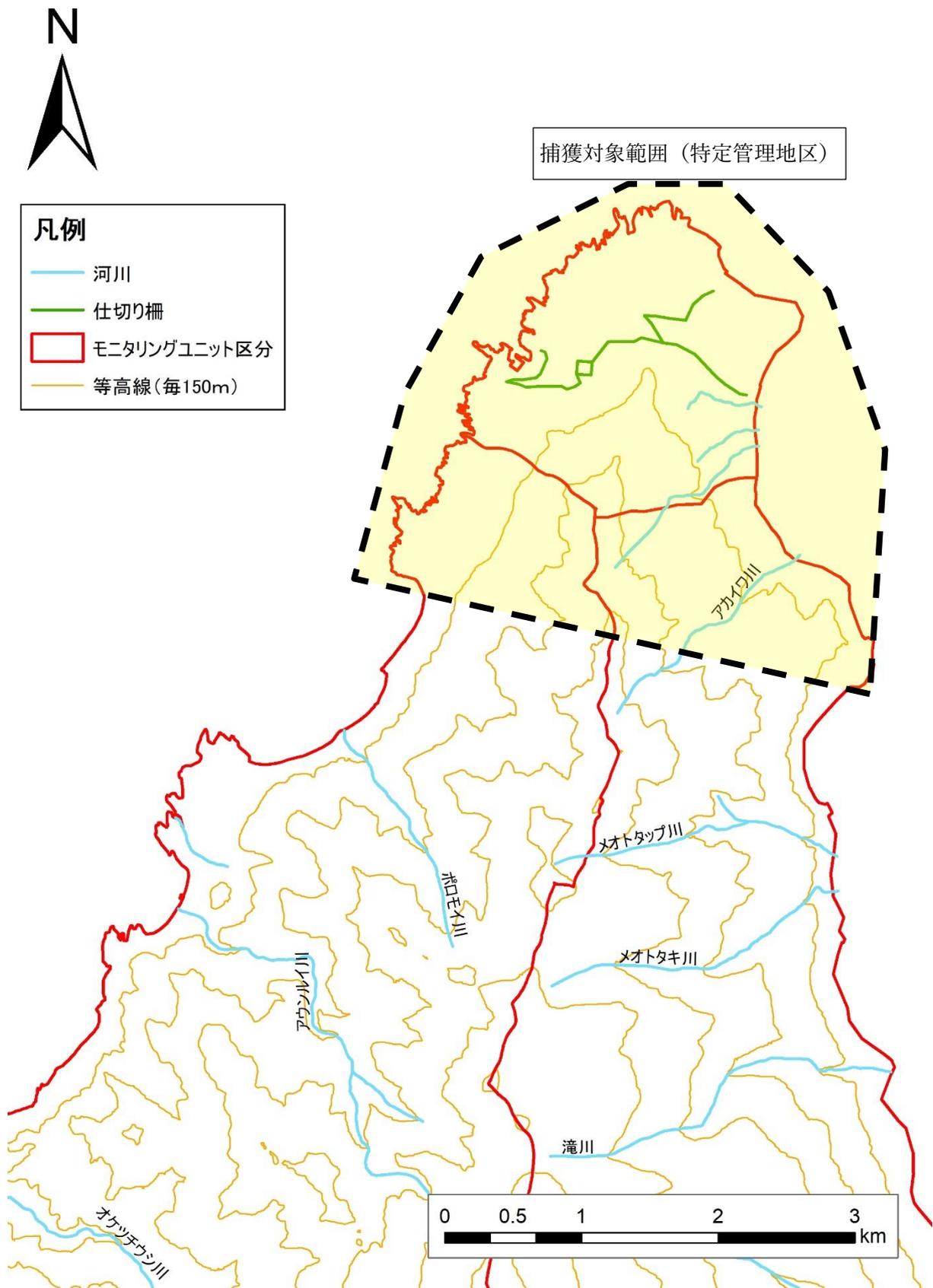
※2 知床岬地区以外の2地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数（雌雄合計）から一般的な自然増加率（年当たり21%）分を算出し、雌雄合計として捕獲目標頭数を設定。この内メス成獣については、過去の捕獲実績より上記目標頭数の約3割程度を目標頭数として設定。

なお、実施地区ごとの目標密度等の状況は下表のとおり。

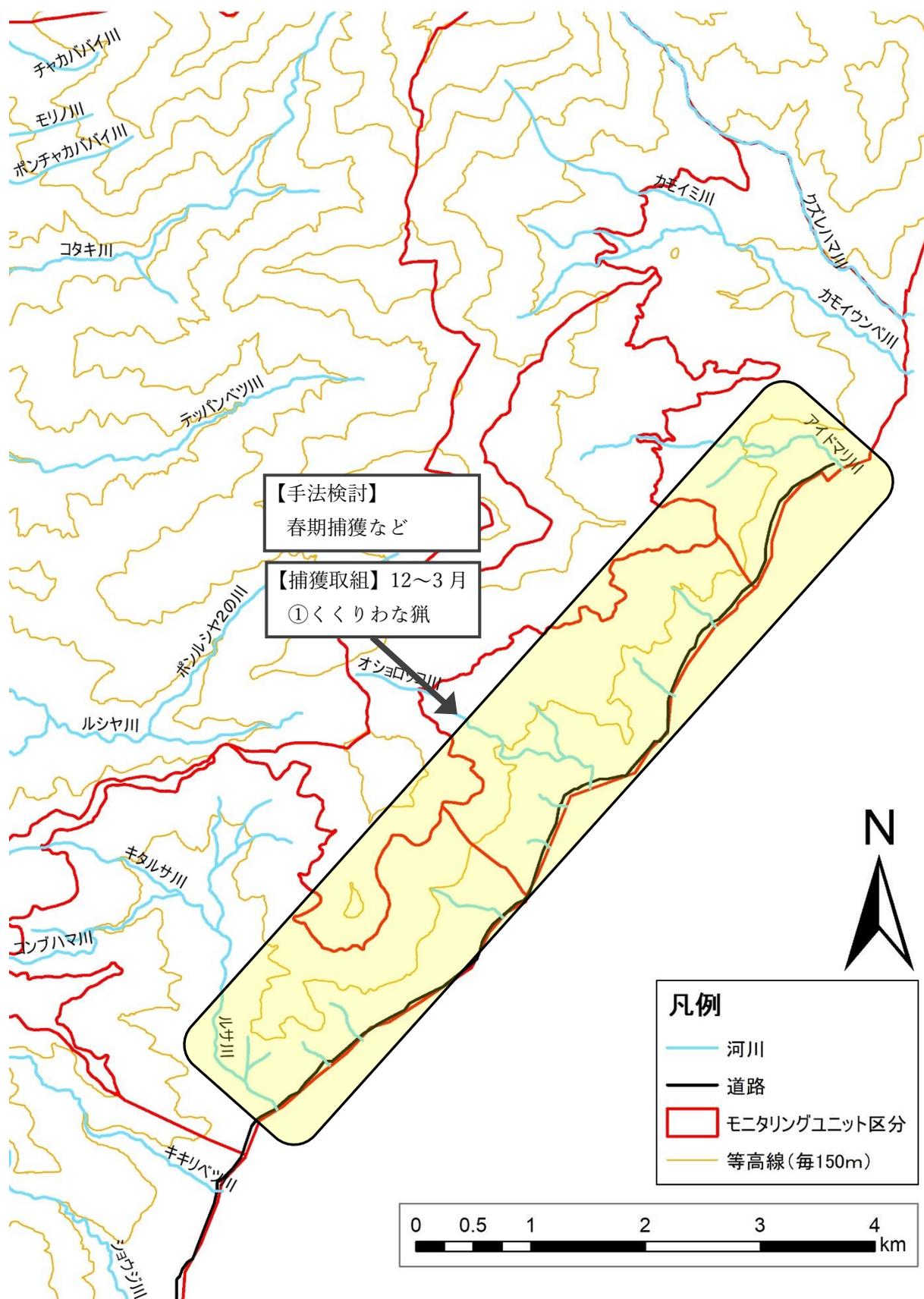
実施地区	第4期 目標密度	発見頭数※1	発見密度※1	
		2022年度	2022年度	第3期最終年 (2021年度)
知床岬地区	10 頭/km ²	315 頭 内メス成獣 141 頭	63.47 頭/km ²	78.64 頭/km ²
ルサ-相泊地区	5 頭/km ²	75 頭	3.04 頭/km ²	3.97 頭/km ²
幌別-岩尾別地区	5 頭/km ²	80 頭	2.75 頭/km ²	10.28 頭/km ²

※1 発見頭数及び密度については、過年度のエゾシカ航空カウント結果を基に算出・掲載。

4. 捕獲等取組予定位置図



位置図(1) 知床岬地区

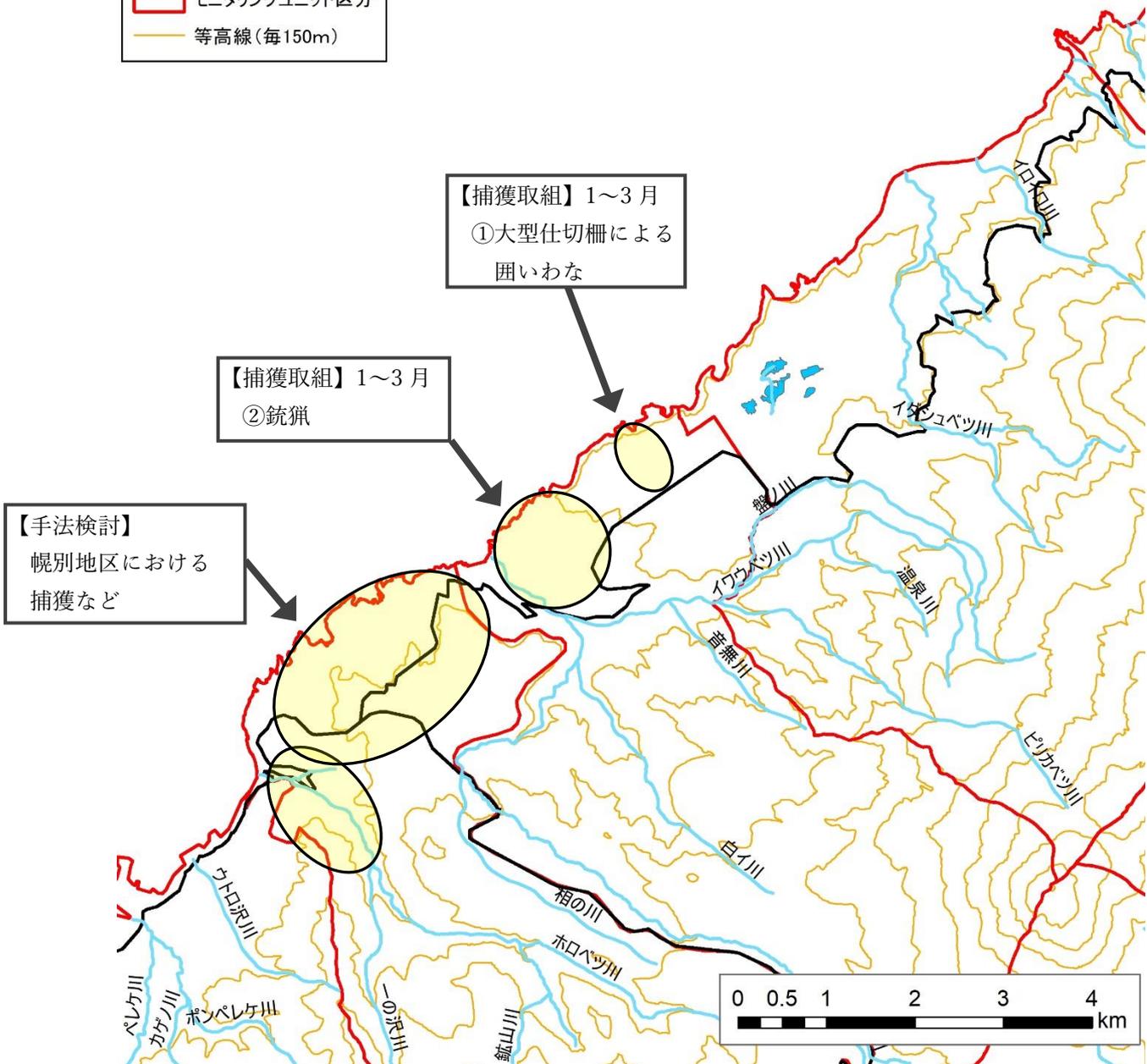


位置図(2) ルサ-相泊地区



凡例

-  河川
-  道路
-  モニタリングユニット区分
-  等高線(毎150m)



位置図(3) 幌別-岩尾別地区

(案)

5. 2023 (R5) シカ年度 エゾシカ捕獲事業計画 (隣接地域)

第4期知床半島エゾシカ管理計画の管理目標：エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全するとともに、地域住民とエゾシカの軋轢緩和を図る。

1) 経緯と方針

<経緯>

- ・北海道森林管理局では、2010 (H22) 年度から春荊古丹地区で捕獲事業を開始。2013 (H25) 年度から遺産地域に隣接する宇登呂地区での捕獲事業を開始。2014 (H26) 年度から遠音別地区、真鯉地区において捕獲事業を開始。
- ・わなによる捕獲は、囲いわな、箱わなに加え、2018 (H30) 年度からくくりわなによる捕獲を実施。
- ・囲いわなでの捕獲数が年々減少しており、理由としては警戒心の増加、局所的な生息数の減少が原因として考えられる。
- ・地形条件等により囲いわな設置が難しい箇所においては、銃を用いた捕獲を2014 (H26) 年度から実施。なお、捕獲可能な場所が限られることもあり、捕獲頭数は年々減少しており、R2年度以降は銃猟を休止するとともに、くくりわな主体に捕獲を実施。

<方針>

- ・事業実施にあたっては希少野生生物に配慮するため有識者より助言を受けて実施する。
- ・くくりわなにおいて安定した頭数が捕獲されていることから、捕獲方法はくくりわなによる捕獲を行う。
- ・囲いわなについては捕獲頭数が減少しているため、当面休止する。
- ・銃を用いた捕獲は捕獲頭数の減少のため、今年度も実施しない。
- ・銃猟禁止区域であるウトロ東からオシンコシンにかけて、及び春荊古丹において、くくりわなによる捕獲を行う。
- ・捕獲目標頭数は前年度及び前々年度実績を勘案して作成。

2) 捕獲事業内容案

<全体>目標 80 頭

- ・くくりわな（1月上旬～2月下旬に捕獲を実施）

2-1) 宇登呂地区 捕獲目標頭数：20 頭

- ・くくりわな（ウトロ東、弁財崎）

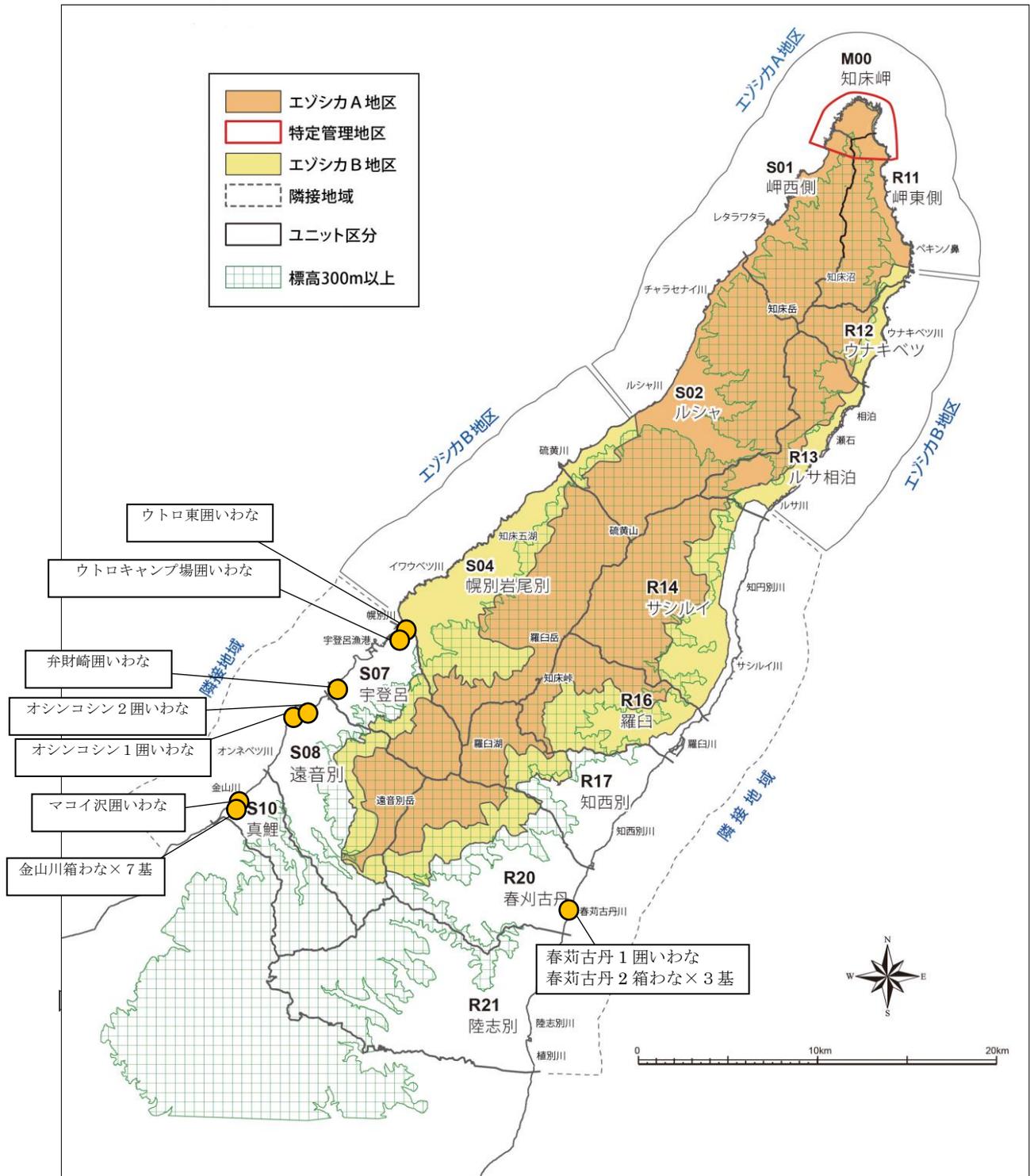
2-2) 遠音別地区 捕獲目標頭数：35 頭

- ・くくりわな（オシンコシン周辺）

2-3) 春苺古丹地区 捕獲目標頭数：25 頭

（12月給餌・誘引開始、1月上旬～2月下旬捕獲実施）

- ・くくりわな（春苺古丹川周辺）



6. 2023(R05)シカ年度 植生モニタリング実施計画(環境省分)

これまでの実施成果とモニタリング計画を基にした2023年度の計画案を下表にまとめた。

表 第4期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画

●印が今回、環境省事業として行う植生モニタリング調査対象。

評価	項目	モニタリング項目	実施主体	No.	調査地区	植生タイプ	第4期計画期間					基本的な考え方等
							2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	2026 (R08)	
植生	詳細調査	簡易的な手法による指標種の回復量調査	環境省	V01	知床岬	森林・草原	○	●	○	○	○	毎年実施
					幌別-岩尾別	森林・草原	○	●	○	○	○	
					ルサ-相泊	草原	○	●	○	○	○	
					ルシヤ	森林・草原		●			○	
		植生影響調査	林野庁	V02	知床岬	森林		○			△	毎木は5年間隔、 林床・稚樹・下枝は 隔年で実施
					幌別-岩尾別			○			△	
					ルサ-相泊		△		○			
		植生保護柵を用いた回復過程調査	環境省	V03	知床岬	草原			○		○	知床岬は隔年、幌別は5年間隔で実施
					幌別				○		○	
					ルシヤ			●			○	
		エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	環境省	V07	知床岬	草原		○				終了
幌別-岩尾別					○							
ルサ-相泊												
広域調査	植生影響調査(森林植生)	林野庁	V08	標高300未満(越冬地)、 標高300~600m	森林	○					5年間隔で実施 調査計画を全体に調整して毎年10~20区を調査	
				25区								
植生影響調査(海岸植生)	環境省	V09	斜里側	海岸				○		5年間隔で実施		
			羅臼側					○				
植生影響調査(高山植生)	環境省	V10	全域	高山	○	●	○	○		5年間隔で実施		
			遠音別岳 知床連山		○	○	○	○				
環境省	V11	硫黄山周辺	高山	○	○	○	○	○		毎年実施		
土壌侵食	詳細	土壌侵食状況調査	環境省	E01	知床岬	草原					終了	
土壌侵食	広域	土壌侵食状況広域調査	環境省 林野庁	E02	全域	森林					広域植生調査 V08 に合わせて実施	
生態系への影響	詳細調査	陸上無脊椎動物(主に昆虫類)の生息状況調査	環境省	B01	知床岬	森林・草原			○		5年間隔で実施	
					幌別-岩尾別				○			
					ルサ-相泊				○			
		陸上鳥類生息状況調査	環境省	B02	知床岬				○		5年間隔で実施	
幌別-岩尾別							○					

※V04 植生保護柵を用いた回復過程調査のうち、岩尾別地区の森林固定区はモニタリング項計画から外されているが、現況確認のため2022年度に調査を実施した。

1. 詳細調査：エゾシカ個体数調整地区における指標開発・事業評価

1.1 簡易的な手法による指標種の回復量調査 (V01) ※環境省事業

2023年度は、知床岬地区、幌別地区、ルサ地区のほか、ルシヤ地区を加えた4地区において、夏季(8月頃)にこれまでと同じ手法で植生調査を実施し、経年変化の傾向を把握する。

また、知床岬地区については、初夏(6月下旬)にも開花期を持つ種を対象とした調査を実施する。

■知床岬地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_ML1	550	大型囲い柵沿い、森林固定区まで
森林	F_ML2	1,500	大型囲い柵沿い、羅臼側
草原	G_ML1	1,330	文吉湾～アブラコ湾
草原	G_ML2～4	1,160	アブラコ湾～灯台～羅臼金属柵
草原	G_ML5	214	エオルシ柵内外

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
森林	F_M1	100	対照
森林	F_M1c	100	囲い
草原	G_M1	100	対照
草原	G_M2	100	対照
草原	G_M3	50	対照



■幌別地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_HL1	500	自然センター向かい
森林	F_HL2	500	森林固定区向かい
森林	F_HL3	500	岩尾別温泉途中
草原	G_HL1	920	フレバ遊歩道一周

【詳細ライン概要】

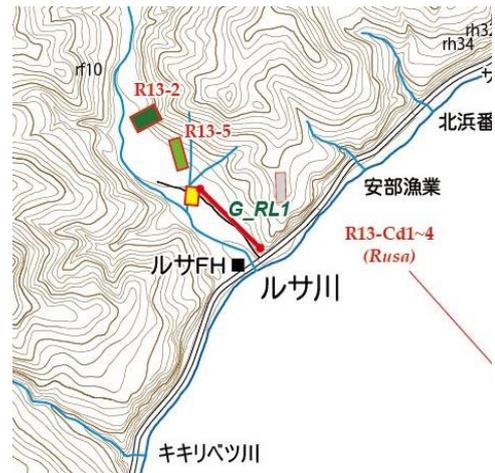
植生	調査区名	距離m	タイプ
森林	F_H1	100	対照
森林	F_H1c	100	囲い
森林	F_H2	100	対照
草原	G_H1	50	対照



■ルサ地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
草原	G_RL1	370	囲いむなに向かう作業道沿いの山側



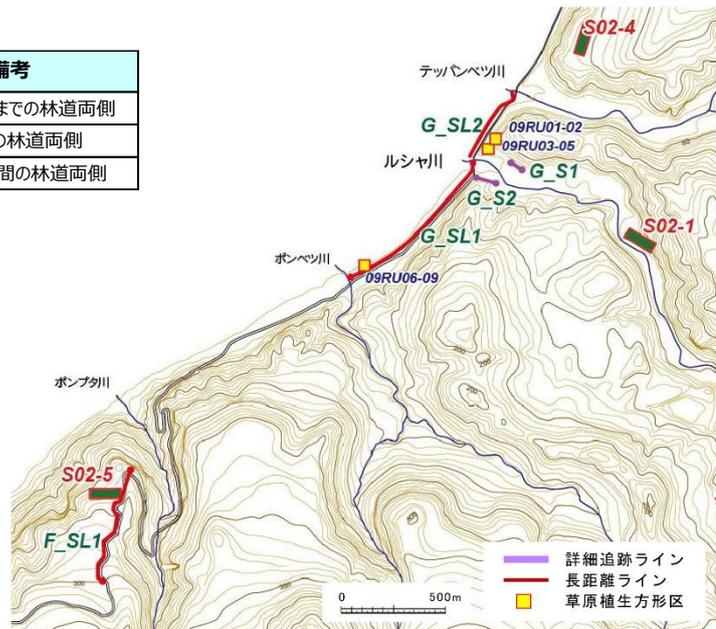
■ルシャ地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_SL1	600	カーブから301mピークまでの林道両側
草原	G_SL1	880	ポンベツ川-ルシャ川間の林道両側
草原	G_SL2	380	ルシャ川-テツパンベツ川間の林道両側

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
草原	G_S1	50	対照
草原	G_S2	50	対照



1.2 植生影響調査(草原植生) (V03) ※環境省事業

草原植生については、知床岬地区、幌別-岩尾別地区、ルシャ地区のそれぞれに固定植生調査区を設置して、その推移をモニタリングしている。

2023年度の調査対象であるルシャ地区では、上記図に示すとおり、ルシャ川およびポンベツ川の河口付近に設定された9つの方形区(09RU01~09RU09)について調査を実施し、経年変化の傾向を把握する。

2. 広域調査：半島全体における植生の状況とエゾシカ影響の把握

2.1 植生影響調査(高山植生) (V10) ※環境省事業

知床半島の植物相を特徴づけるものの一つである高山植生を大きく 4 つの地区に分け、各地区 5 年間隔でモニタリングしている。2023 年度は知床連山周辺地域における調査を実施し(2007 年、2012 年、2018 年に続く調査)、経年変化の傾向を把握する。

調査区は高山植生に 5 地点(SR-4～SR-8)設定されている。



7. 2023 (R05) シカ年度 植生モニタリング実施計画 (林野庁分)

これまでの実施成果とモニタリング計画をもとにした2023年度の計画のうち林野庁実施分について示した。第4期エゾシカ管理計画におけるモニタリング調査の構成を踏まえ、表-1に調査のスケジュール一覧を示した。

表-1.第4期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画 (植生関連)

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ	第4期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01		環境省	簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原/森	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシヤは他調査(V03等)と合わせて実施
				ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	
				幌別-岩尾別	草原/森	○	○	○	○	○	
				ルシヤ	草原/森		○			○	
V02		林野庁	植生影響調査 (森林植生、草原植生)	知床岬	森林		○			△	林床・稚樹・下枝は5年に2回程度(△)、毎木は1回実施。変化の少ないルシヤ地区は5年間隔とする
				ルサ-相泊		△		○			
				幌別-岩尾別			○			△	
				ルシヤ					○		
V03		環境省	植生	知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は5年間隔程度
				幌別				○			
				ルシヤ			○			○	
V04		林野庁	植生保護柵を用いた回復過程調査	知床岬	森林		○				※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために5年に1回程度実施
				幌別			○				
V05		斜里町	回復過程調査	幌別-岩尾別		○	○	○	○	○	100平米運動地ほか
V06		環境省		知床岬	草原	○		○		○	隔年程度。他調査(V03等)と合わせて実施
V07		環境省	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原						各調査区ともに終了
				ルサ-相泊							
				幌別-岩尾別							

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ	第4期計画期間					基本的な考え方など		
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08			
V08	広域調査	林野庁	植生影響調査（森林植生）	全域の越冬地（標高300m未満）、標高300～600m	森林	調査計画を全体に調整して毎年10～20区を調査					基本的に5年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げて予備調査区とする		
V09			環境省	植生影響調査（海岸植生）	斜里側 羅臼側	海岸	25区	16区					5年間隔
V10			環境省	植生影響調査（高山植生）	全域	高山	遠音別岳	知床連山	羅臼湖	知床岳			5年間隔
V11			環境省		硫黄山周辺		○	○	○	○		○	毎年実施
E01			土壌浸食	詳細	環境省	土壌浸食状況調査	知床岬	(草原)					
E02	環境省	土壌浸食状況広域調査			全域	森林	広域植生調査(V08)に併せて実施						
B01	生態系への影響	詳細調査	環境省	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況調査	知床岬	草原・森林		○			5年間隔		
B02					環境省		陸上鳥類生息状況調査	知床岬	○				
	幌別-岩尾別	○											
			半島基部	○									

1. 詳細調査：個体数調整地区における指標開発・事業評価

個体数調整地区 3 地区においては、個体数調査の効果を検証するためのモニタリングを実施してきている。

1-1. 植生影響調査（森林植生）（V02） 林野庁事業

森林調査は稚樹・下枝・林床植生については2年間隔のモニタリングを基本としており、2023年度は知床岬地区 6 区と幌別-岩尾別地区 6 区で調査を実施する（2-1 広域森林調査参照）。

岬地区では嗜好種の合計被度がここ2回減少傾向があり、幌別-岩尾別地区ではササ類の回復が見られていたことから、今回の調査で傾向の変化を検証する。

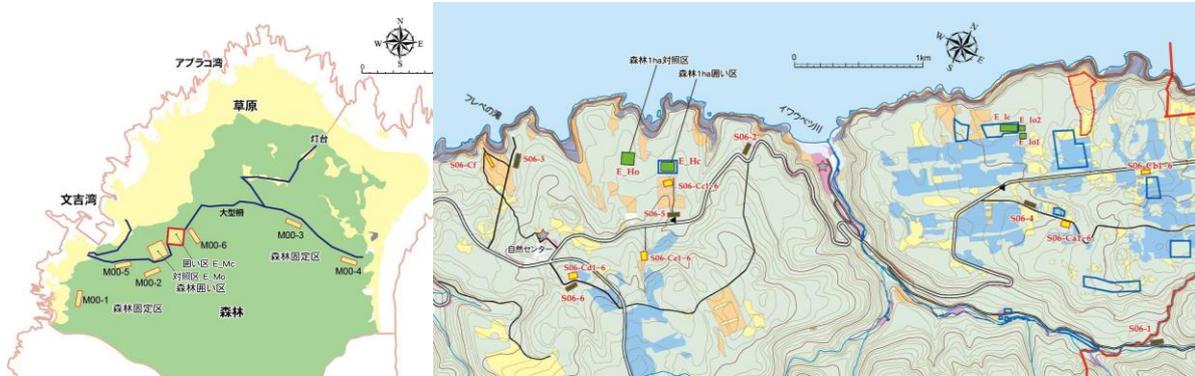


図-1.知床岬地区と幌別-岩尾別地区の森林調査区的位置

1-2.植生保護柵を用いた回復過程調査（森林植生）（V04） 林野庁事業

保護柵内外でのモニタリングは5年間隔での実施に変更しているが、2023年度は知床岬地区の圃い区・対照区と幌別地区の圃い区・対照区（それぞれ約1ha）の調査を予定している（毎木調査含む）。

両地区とも、圃い区内で見られた回復傾向が横ばいになってきており、対照区では大きな変化が見られていない。今回の調査で傾向の変化を検証する。



表-2.植生保護柵を用いた固定圃い区のスケジュール一覧

■ 固定圃い区・対照区 (1ha区、V04)

番号	エリアNo	エリア	調査区名	区分	設置年	実施者	面積	第1期長期モニタリング												第2期長期モニタリング～						方針		
								第1期保護管理計画				第2期保護管理計画				第3期保護管理計画				第4期保護管理計画								
								07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		25	26
1	M00	知床岬	E_Mc	圃	2004	林	10,000		■			■		●		▲		■		▲		▲		□				5年に1回程度
2	M00	知床岬	E_Mo	対	2004	林	10,000		■			■		●		▲		■		▲		▲		□				5年に1回程度
3	S06	幌別岩尾別	E_Hc	圃	2003	林	9,600	◆		■		■		●		▲		■		▲		▲		□				5年に1回程度
4	S06	幌別岩尾別	E_Ho	対	2003	林	10,000	◆		■		■		●		▲		■		▲		▲		□				5年に1回程度
5	S06	幌別岩尾別	E_Ic	圃	2009	林	10,000			■		■													■			モニタリング適性を検討
6	S06	幌別岩尾別	E_Io1	対	2009	林	2,500			■		■													■			モニタリング適性を検討
7	S06	幌別岩尾別	E_Io2	対	2009	林	2,500			■		■													■			モニタリング適性を検討

調査区分の記号 ■ : 1ha全調査、▲ : 林床・下枝・稚樹のみ、◆ : 下枝など簡易、□ : 今後の調査予定

2. 広域調査 = 半島全体における植生の状況とエゾシカの影響の把握

2-1. 植生影響調査（森林植生）（V08） 林野庁事業（一部環境省）

知床半島全域をユニット区分して、森林植生に全 70 調査区を設定している（図-2）。5 年間隔のモニタリングを基本としているが、優先度が低いユニットについては 10 年程度の間隔となっており、調査区の見直しを進めている。100m×4m の固定带状区において、立木・稚樹・下枝・林床植生について生育種とシカの食痕を調査している。



図-2. 知床半島全域における森林植生モニタリング調査区の位置と今年度の調査区

今年度は、個体数調整地区である岬地区・幌別・岩尾別地区、前回調査から5年または10年となる岬東側・岬西側の各地区の合計16区での調査を予定している。後者の地区はエゾシカの影響評価にあまり適していない場合には、今後のモニタリング対象としての適性を検証することとする。

表-3.広域森林調査区のスケジュール一覧

調査区分の記号 ■：1ha全調査、●：帯状区全調査、▲：帯状区林床・下枝・稚樹のみ、◆：下枝など簡易、▼：固定が不十分、下枝など未実施
※赤字は固定最終年 \は予定年だが未実施 ○●△：今後の調査予定、○：調査区のモニタリング適性を検証する調査予定

番号	エリアNo	エリア	調査区分名	区分	旧名	設置年	実施者	面積	第1期長期モニタリング																	方針
									第1期保護管理計画					第2期保護管理計画					第3期保護管理計画					第4期保護管理計画		
									07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
1	M00	知床岬	M00-1	低	M-01	2011	林	400						●		▲		▲		▲		○		△	5年に2回程度	
2	M00	知床岬	M00-2	低	M-02	2011	林	400						●		▲		▲		▲		○		△	5年に2回程度	
3	M00	知床岬	M00-3	低	M-03	2011	林	400						●		▲		▲		▲		○		△	5年に2回程度	
4	M00	知床岬	M00-4	低	M-04	2011	林	400						●		▲		▲		▲		○		△	5年に2回程度	
5	M00	知床岬	M00-5	低	Sc08	2008	林	400		▼				●		▲		▲		▲		○		△	5年に2回程度	
6	M00	知床岬	M00-6	低	Sc09	2008	林	400		▼				●		▲		▲		▲		○		△	5年に2回程度	
7	R11	岬東側	R11-1	低	Rc09	2009	林	400			▼				●							○			モニタリング適性を検討	
8	R11	岬東側	R11-2	低	Rc02	2009	林	400			▼				●							○			モニタリング適性を検討	
9	R12	ウナキベツ	R12-1	低	R12-1	2008	林	400					●											○	5年に1回程度	
10	R12	知床岳(羅臼)	R12-H1	高	A_SN3	2008	環	400		◆				●										○	高山調査に附随して実施	
11	R13	ルサ相泊	R12-2	低	R12-2	2011	林	400						●		▲		▲		●		▲		○	5年に2回程度	
12	R13	ルサ相泊	R13-1	低	R13-1	2011	林	400						●		▲		▲		●		▲		○	5年に2回程度	
13	R13	ルサ相泊	R13-2	低	R13-2	2011	林	400						●		▲		▲		●		▲		○	5年に2回程度	
14	R13	ルサ相泊	R13-3	低	R13-3	2011	林	400						●		▲		▲		●		▲		○	5年に2回程度	
15	R13	ルサ相泊	R13-4	低	Ra04	2006	林	400		▼				●		▲		▲		●		▲		○	5年に2回程度	
16	R13	ルサ相泊	R13-5	低	Ra01	2006	林	400		◆				●								●			モニタリング適性を検討	
17	R14	ザシルイ川	R14-1	低	R14-1	2011	林	400						●								●		○	5年に1回程度	
18	R14	ザシルイ川	R14-2	低	R14-2	2011	林	400						●								●		○	5年に1回程度	
19	R14	ザシルイ川	R14-3	低	R14-3	2011	林	400						●								●		○	5年に1回程度	
20	R16	羅臼	R16-1	低	Rb10	2006	林	400		▼				●								●			モニタリング適性を検討	
21	R16	羅臼	R16-2	低	Rb09	2006	林	400		◆				●								●			モニタリング適性を検討	
22	R16	羅臼	R16-H1	高	R16-1	2011	林	400						●								●			予備調査区へ変更予定	
23	R16	羅臼	R16-H2	高	R16-2	2011	林	400						●								●			予備調査区へ変更予定	
24	R16	羅臼	R16-H3	高	A_SR3	2007	環	400		◆				●								○			高山調査に附随して実施	
25	R17	知西別川	R17-1	低	R17-1	2011	林	400						●								●			モニタリング適性を検討	
26	R17	知西別川	R17-2	低	R17-2	2011	林	400						●								●			モニタリング適性を検討	
27	R20	春刃古丹	R20-1	低	Rb05	2006	林	400		▼				●		▲		▲		●		▲		○	5年に1回への変更を検討	
28	R20	春刃古丹	R20-2	低	Rb07	2006	林	400		▼				●		▲		▲		●		▲		○	5年に1回への変更を検討	
29	R20	春刃古丹(羅臼)	R20-H1	高	ON6	2011	環	200						●								●			高山調査に附随して実施	
30	R21	陸志別	R21-1	低	R21-1	2011	林	400						●								●		○	5年に1回程度	
31	R21	陸志別	R21-2	低	R21-2	2011	林	400						●								●		○	5年に1回程度	
32	R21	陸志別	R21-3	低	R21-3	2011	林	400						●								●		○	5年に1回程度	
33	R21	陸志別	R21-4	低	Rb01	2006	林	400		▼				●								●			モニタリング適性を検討	
34	R21	陸志別	R21-5	低	Rb02	2006	林	400		▼				●								●			モニタリング適性を検討	

※調査区分の■青色塗りは、標高300m以上に設置された調査区（高標高地）。

※実施者の■水色塗りは、環境省の事業で実施された森林調査区。

※■橙色塗りは囲い区内でエゾシカ排除下での調査、■黄色塗りは個体数調整下での調査。

■固定帯状区（採食圧調査、100m×4m）

番号	エリアNo	エリア	調査区名	区分	設置年	実施者	面積	第1期長期モニタリング																第2期長期モニタリング～				方針
								第1期保護管理計画				第2期保護管理計画				第3期保護管理計画				第4期保護管理計画								
								07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
35	S01	岬西側	S01-1	低	2008	林	400	▼				●				●						○			モニタリング適性を検討			
36	S01	岬西側	S01-2	低	2008	林	400	▼				●				●						○			モニタリング適性を検討			
37	S02	ルシヤ	S02-1	低	2011	林	400				●				●	▲								○	5年に1回程度			
38	S02	ルシヤ	S02-2	低	2011	林	400				●				●	▲								○	5年に1回程度			
39	S02	ルシヤ	S02-3	低	2008	林	400	▼				●				●	▲							○	5年に1回程度			
40	S02	ルシヤ	S02-4	低	2008	林	400	▼				●				●	▲							○	5年に1回程度			
41	S02	ルシヤ	S02-5	低	2008	林	400	▼				●				●	▲							○	5年に1回程度			
42	S02	ルシヤ	S02-6	低	2008	林	400	▼				●				●	▲							○	5年に1回程度			
43	S04	五湖	S04-1	低	2011	林	400				●				●							●		○	5年に1回程度			
44	S04	五湖	S04-2	低	2011	林	400				●				●							●		○	5年に1回程度			
45	S04	連山中腹	S04-H1	高	2006	林	400	▼			●											●			モニタリング適性を検討			
46	S04	連山中腹	S04-H2	高	2003	林	400				●											●			モニタリング適性を検討			
47	S04	連山中腹	S04-H3	高	2006	林	200	▼			●											●			モニタリング適性を検討			
48	S04	連山中腹	S04-H4	高	2007	環	400	◆			●											○			高山調査に附随して実施			
49	S04	幌別岩尾別	S06-1	低	2011	林	400				●	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	○		△	5年に2回程度				
50	S04	幌別岩尾別	S06-2	低	2011	林	400				●	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	○		△	5年に2回程度				
51	S04	幌別岩尾別	S06-3	低	2011	林	400				●	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	○		△	5年に2回程度				
52	S04	幌別岩尾別	S06-4	低	2012	林	400				▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○		△	5年に2回程度				
53	S04	幌別岩尾別	S06-5	低	2012	林	400				▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○		△	5年に2回程度				
54	S04	幌別岩尾別	S06-6	低	2012	林	400				▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○		△	5年に2回程度				
55	S04	横断道	S06-H1	高	2011	林	400				●				●							●			モニタリング適性を検討			
56	S04	横断道	S06-H2	高	2011	林	400				●				●							●			モニタリング適性を検討			
57	S04	横断道	S06-H3	高	2006	林	400	▼			●											●			モニタリング適性を検討			
58	S07	宇登呂	S07-1	低	2011	林	400				●		▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	△			5年に2回程度			
59	S07	宇登呂	S07-2	低	2011	林	400				●		▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	△			5年に2回程度			
60	S07c	宇登呂	S07-3c	低	2014	林	400					●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	△			5年に2回程度			
61	S07	宇登呂	S07-4	低	2014	林	400					●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	△			5年に2回程度			
62	S08	遠音別	S08-1	低	2006	林	400	▼			●										●			○	5年に1回程度			
63	S08	遠音別	S08-2	低	2006	林	400	◆			●										●			○	5年に1回程度			
64	S08	遠音別	S08-3	低	2006	林	400	▼			●										●			○	5年に1回程度			
65	S08	遠音別	S08-4	低	2006	林	400	◆			●										●			○	5年に1回程度			
66	S08	遠音別岳	S08-H1	高	2011	林	400				●				●							●			モニタリング適性を検討			
67	S08	遠音別岳	S08-H2	高	2011	環	400				●				●										モニタリング適性を検討			
68	S08	遠音別岳	S08-H3	高	2011	環	400				●				●										モニタリング適性を検討			
69	S10	真鯉	S10-1	低	2011	林	400				●				●							●		○	5年に1回程度			
70	S10	真鯉	S10-2	低	2011	林	400				●				●							●		○	5年に1回程度			

※調査区名の ■ 青色塗りは、標高300m以上に設置された調査区（高標高地）。

※実施者の ■ 水色塗りは、環境省の事業で実施された森林調査区。

※ ■ 橙色塗りは囲い区内でエゾシカ排除下での調査、■ 黄色塗りは個体数調整下での調査。